

○事業所名	シルビアンレクトレセンター			
○保護者評価実施期間	令和 8 年 4 月 27 日		～	令和 8 年 5 月 13 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0名/対象児童なし	(回答者数)	令和7年度は利用者なし
○従業者評価実施期間	令和 8 年 5 月 1 日		～	令和 8 年 5 月 15 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 5 月 27 日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	◎視覚支援 児童一人ひとりの理解特性や発達段階に応じて、視覚的なツールを活用し、「時間」や「言葉」をわかりやすく伝える支援を行っています。イラスト・写真・文字・英語表記など、多様な視覚情報を取り入れながら、児童が安心して理解し行動できる環境づくりに努めています。また、実際の支援場面を通して効果を検証し、より伝わりやすい教材やツールとなるよう継続的な改善・工夫を行っています。	児童全員と同じ支援を行うのではなく、一人ひとりの特性や理解の仕方、安心して取り組める方法に合わせた個別の視覚支援ツールを準備・活用しています。時間の見直しや活動内容、人とのやり取りなどを視覚化することで、児童が自分で理解し、安心して行動につなげられるよう支援を行っています。また、支援内容については職員間で日常的に共有・検討を行い、児童の反応や変化を踏まえながら、より分かりやすく効果的な支援となるよう工夫しています。保護者や学校、併用事業所等とも情報共有を行い、多方面からの意見や気づきを取り入れながら、児童にとって一貫性のある支援につながるよう連携を大切にしています。	児童一人ひとりの特性や理解の仕方に応じた視覚支援を、より幅広い場面で活用できるよう取り組んでいます。また、家庭や学校で実際に使用している教材や支援方法についても情報共有を行い、児童が安心して生活できるよう、日常生活とのつながりを意識した支援に努めています。支援方法については、実際の反応や様子を丁寧に確認しながら、効果的であった支援を継続するとともに、十分な効果が見られなかった場合には新たな方法を検討し、その都度児童に合った支援へと見直し・改善を行っています。今後も、関係機関との連携を大切にしながら、児童がより理解しやすく安心して過ごせる支援環境づくりと、支援の質の向上に努めています。
2	◎個別療育 個々の児童の特性や発達段階、興味・関心に応じた支援を大切にし、一人ひとりに合わせた個別支援を行っています。活動内容については、児童のニーズや目標に応じて複数のプログラムを準備し、その体調や気持ちに合わせて選択できる環境づくりに努めています。また、児童自身が「やってみよう」「これを選びたい」と意思表示できる機会を大切に、自己決定を尊重した支援を実施しています。成功体験を積み重ねながら、自信や主体性を育めるよう、職員間で情報共有を行い、継続的丁寧な支援につなげています。	日常生活の中で必要となる身辺自立やコミュニケーション、社会性の向上につながる支援を意識し、児童が無理なく楽しく取組める療育を実施しています。難しい課題を一時的に行うのではなく、一人ひとりの発達段階や特性に合わせて内容を調整し、「できた」という達成感を積み重ねられるよう支援しています。児童が興味や関心を持っている玩具・活動・音楽などを取り入れたり、レクリエーションや遊びの中に療育要素を自然に取り入れられることで、主体的に参加しやすい環境づくりを行っています。安心して楽しみながら活動に参加できるよう、職員間で情報共有を行い、継続的な支援につなげています。	保護者の方々との連携を大切にするとともに、学校や相談支援事業所、関係機関とも継続的に情報共有を行い、児童一人ひとりの困り感やニーズの把握に努めています。その時々に必要な支援だけでなく、将来の自立や進学・進路・社会参加も見据えながら、発達段階や特性に応じた療育内容の充実を図っています。児童が安心して次のステージへ移行できるよう、生活面・コミュニケーション面・社会性の向上を意識した支援を取り入れ、関係機関と連携しながら切れ目のない支援体制づくりに努めています。
3	◎家族支援 送迎時や連絡帳を通して、保護者の方々とは日頃から丁寧な情報共有を行い、不安や悩み、家庭での困りごとについて気軽に相談できる関係づくりに大切にしています。児童の様子が見られた際には、早めの声掛けや連絡を行い、保護者の方と一緒に状況を共有しながら適切な支援につなげられるよう努めています。また、保護者会や交流の機会を設けることで、保護者同士が情報交換や相談を行える環境づくりに取り組んでいます。今後もご家庭との連携を深め、安心して利用していただける支援体制の充実を図っていきます。	保護者会では、在籍中の保護者の方々だけでなく、卒業された児童の保護者の方々にもご協力いただき、卒業後の進路や生活について実際の体験談を共有できる機会を設けています。進学や就労、福祉サービス利用など、卒業後の具体的なイメージを持てるよう情報提供を行い、将来を見据えた支援につなげています。また、在籍中から卒業後を意識した関わりを大切に、保護者の不安軽減や進路選択の参考となるよう努めています。児童一人ひとりが安心して次のステージへ移行できるよう、関係機関とも連携しながら切れ目のない支援体制づくりに意識して取り組んでいます。	学齢や進路、将来の生活に関する不安や悩みについて、保護者同士が気軽に情報交換や相談ができる機会を継続的に設けていきます。また、年齢別やテーマ別に交流の場を企画し、それぞれの家庭の状況やニーズに応じた情報共有や助言を行える環境づくりに努めてまいります。保護者の方々が一人体験を抱え込まず、安心して子育てや進路について考えられるよう、必要な情報提供や相談支援の充実を図っていきます。今後も保護者の声を大切にしながら、関係機関とも連携し、児童とご家族の将来を見据えた支援体制の強化に取り組めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	◎専門的支援 言語聴覚士・作業療法士・理学療法士等の専門的職配置が十分ではなく、専門的視点を取り入れた支援体制のさらなる充実が課題となっています。また、発語面やコミュニケーション面に困難を抱える児童が多く利用していることから、早期からの言語面への支援や、個々の特性に応じた専門的アプローチの必要性を感じています。加えて、歩行が不安定な児童や身体面に配慮が必要な児童に対し、事業所内で継続的な機能訓練や身体面への支援を行える体制づくりも今後の課題として認識しています。	専門資格を有する職員や児童指導員の確保が難しい状況に加え、個別サポート加算(1)や強度行動障害児支援加算等の対象となる児童の利用が増えており、より専門性の高い支援ニーズが高まっています。その一方で、個別支援計画の作成や日々の支援対応に追われ、支援方法の検証や専門的知識を深めるための研修・学習時間を十分に確保できないことも課題となっています。また、支援方法については日々試行錯誤を重ねていますが、職員間での知識や経験の共有、支援の統一性についても、さらに強化していく必要があると考えています。	専門職を含めた人材確保と職員配置体制の充実を図っていきます。また、専門的な研修への参加機会を増やし、発達特性や支援方法への理解を深めることで、児童一人ひとりの状態把握や個別性に応じた支援の質向上に努めています。さらに、保護者との連携をこれまで以上に大切に、家庭での様子や有効だった関わり方を共有しながら、ペアレントトレーニング的な視点も取り入れた支援につなげていきたいと考えています。今後も、職員間・関係機関・家庭との連携を強化しながら、児童が安心して過ごし、自分らしく成長できる支援環境づくりを進めていきます。
2	◎外出支援 送迎や様々な場所への外出、四季を感じられる活動等について、参加に不安や困難を抱える児童が多い状況があります。少数数での参加は可能であっても、全体での外出活動になると不安感が強まり、集団行動への適応が難しくなる児童も見られます。また、強度行動障害や多動傾向、飛び出し・離席・エスケープ等の行動が見られる児童も多く、安全確保や環境調整が必要となる場面が多いため、外出支援の実施に課題を感じています。	外出時には、移動中の刺激や環境変化により不安定になりやすく、痙攣や大声、混乱、不安行動につながる場合があります。また、疲れや見通しの持ちづらさから気持ちの切り替えが難しくなり、パニックや破壊行動につながるケースも見られます。そのため、マンツーマンに近い支援体制が必要となることも多く、職員配置や安全管理面での負担が大きくなっています。さらに、視覚的な情報整理や事前説明が十分に伝わらない場合には、不安感が強まり行動面に影響することもあり、児童一人ひとりに合わせた事前準備や支援方法の工夫が必要であるとと考えています。	児童が「行きたい」「参加してみたい」と思える場所や、安心して過ごせる環境に丁寧にアセスメントし、一人ひとりに合った外出支援につなげていきます。また、外出前には視覚支援ツールや写真、スケジュール等を活用し、事前学習や見直し支援を行うことで、不安軽減と安心感につながるよう工夫していきます。外出活動については、少数数から段階的に経験を積み重ね、成功体験を増やし、徐々に集団での活動へつなげていくよう支援を行います。さらに、職員間で支援方法や安全配慮について共有・検討を行い、必要に応じて家庭や学校とも連携を図りながら、児童が安心して地域や社会との関わりを広げられるよう支援体制の充実を目指していきます。
3	◎地域交流、社会参加 地域への高齢者施設への訪問や、地域行事への参加・交流活動については実施してはいますが、地域住民の方々との継続的な関わりを持つ機会はまだ十分とは言えない状況です。また、児童館や地域の子ども達との交流会についても実施できておらず、地域社会の中で多様な人と関わる経験や、社会参加の機会をさらに広げていく必要があると感じています。児童が安心して地域とつながりを持つような活動内容や交流方法について、今後さらに検討していく必要があります。	昨年には地域の方々にもお声掛けをし、吹奏楽団やエイサー団体を招き、一緒に鑑賞する企画を実施することができましたが、外出や地域参加に対して不安感が強い児童や、環境変化への配慮が必要な児童も多く、参加できる活動内容や人数に制限が生じる場合があります。さらに、地域活動によっては人混みや大きな音など刺激が多く、児童にとって負担となることもあるため、安全面や個別配慮を踏まえた支援体制づくりが必要であるとと考えています。加えて、地域側との事前調整や受け入れ体制の構築にも時間を要することから、継続的な地域交流につながるための関係づくりが課題となっています。	災害時や緊急時にも地域の方々との助け合い関係づくりを意識し、日頃から地域とのつながりを大切に活動を増やしていきます。また、地域の方々に参加しやすい行事や交流機会をさらに企画し、地域住民・自治会・関係機関等との連携を深めながら、児童が安心して地域と関わる環境づくりに進めています。児童の特性や不安感に配慮しながら、少数数での交流や短時間の参加など、段階的に社会参加の経験を積めるよう工夫していきます。さらに、児童館や地域イベント、他法人等との交流を通して、多世代との関わりや社会性を育む機会を広げ、児童一人ひとりの成功体験や自信につながる支援を行っています。